

## 平成30年度男女共同参画に関する市民意識調査 結果報告

横浜市では、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、あらゆる分野に対等に参画できる社会の実現を目指し、取組を進めています。

このたび、男女共同参画に関する市民の意識や実態、ニーズを明らかにし、横浜市における課題を把握するため、「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しましたので、結果をご報告します。

### 1 調査の概要

調査対象	横浜市内在住の満18歳以上の男女（外国籍市民を含む） 住民基本台帳及び外国人登録原票による無作為抽出
調査方法	調査票の郵送による配布および回収
調査期間	平成30年5月7日～平成30年5月31日
集計方法	ウェイトバック集計
回収結果	配布票数：8,000票 有効回収票数：2,439票 回収率：30.4%

### 2 調査結果の特徴

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えについては、全体の約5割が否定的な考え方で、肯定的な考え方（約2割）を大きく上回っている。（P.1）
- 職場での女性活躍の取組について、約6割が「進んでいる」または「どちらかといえば進んでいる」と感じている。（P.2） 職場での女性活躍の取組が進まない理由は、「職場が男性中心の組織風土である」が最も多い。（P.3）
- 共働き世帯では、仕事のある日の「家事」「育児」「介護」に費やす時間について、男性（約1時間）と女性（約5時間）で比較すると約1対5の比率となっている。（P.4）
- 男性が育児や介護のために休業や休暇を取得することに対する意識について、男女ともに肯定的な意見が約8割となっている。（P.5） 一般的社会において取得しない方が良いと考える理由は、「職場の理解が得られない」「仕事の評価や配属に影響する」が多く、自分・自分の夫の場合での理由は、「経済的に苦しくなる」が多い。（P.6）
- セクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験について、全体の約1割が「受けたことがある」と回答し、職場においては、「容姿や年齢について話題にされた」「性的な話や冗談を聞かされた」「結婚や出産などプライベートなことについてたびたび聞かれた」の順に多い。（P.7）

★調査結果は、政策局男女共同参画推進課のホームページに掲載します。

URL：<http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/danjo/chousa/>

お問合せ先

政策局男女共同参画推進課長 山本 千穂 Tel 045-671-3691



# 調査結果の概要

## ●性別による役割分担意識に関する意識

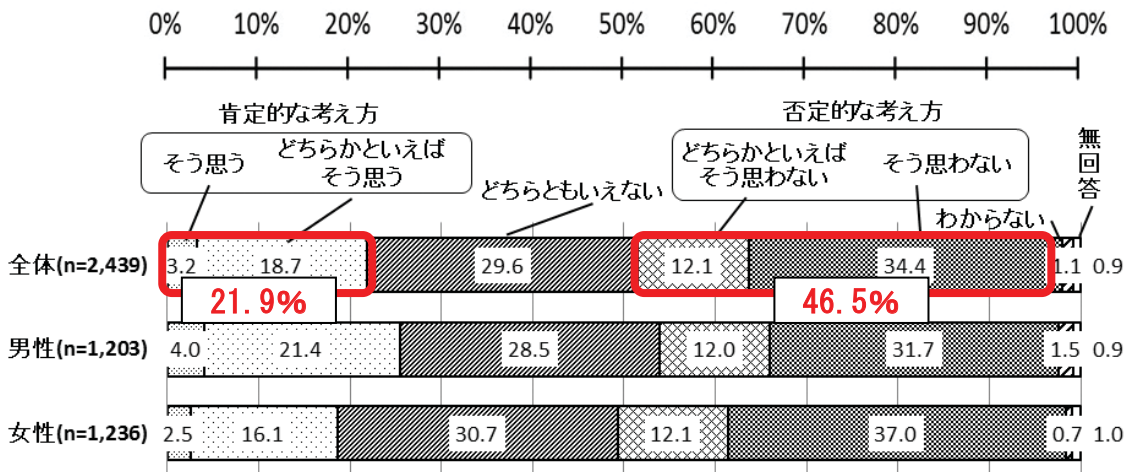
男女の性別役割分担について、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思うかをたずねた。

全体では、否定的な考え方（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計：46.5%）が肯定的な考え方（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計：21.9%）を大きく上回っている。

過去の市民意識調査では「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という聞き方であったため、単純な比較はできないが、参考として、前回調査と比較すると、肯定的な考え方の割合が低くなり、否定的な考え方の割合が高くなっており、特に男性に意識の変化がみられる。

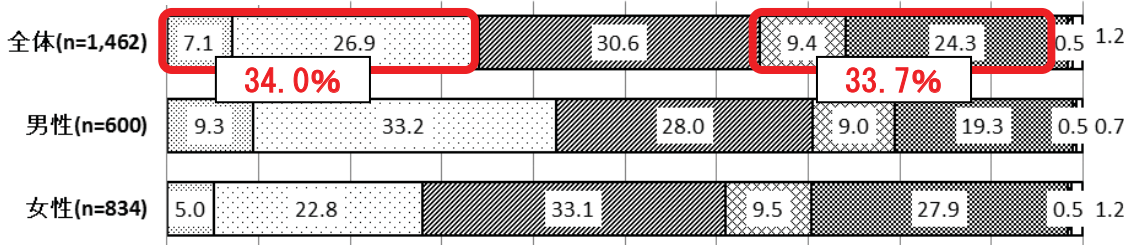
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」－ 経年比較

【今回調査】平成30年度調査



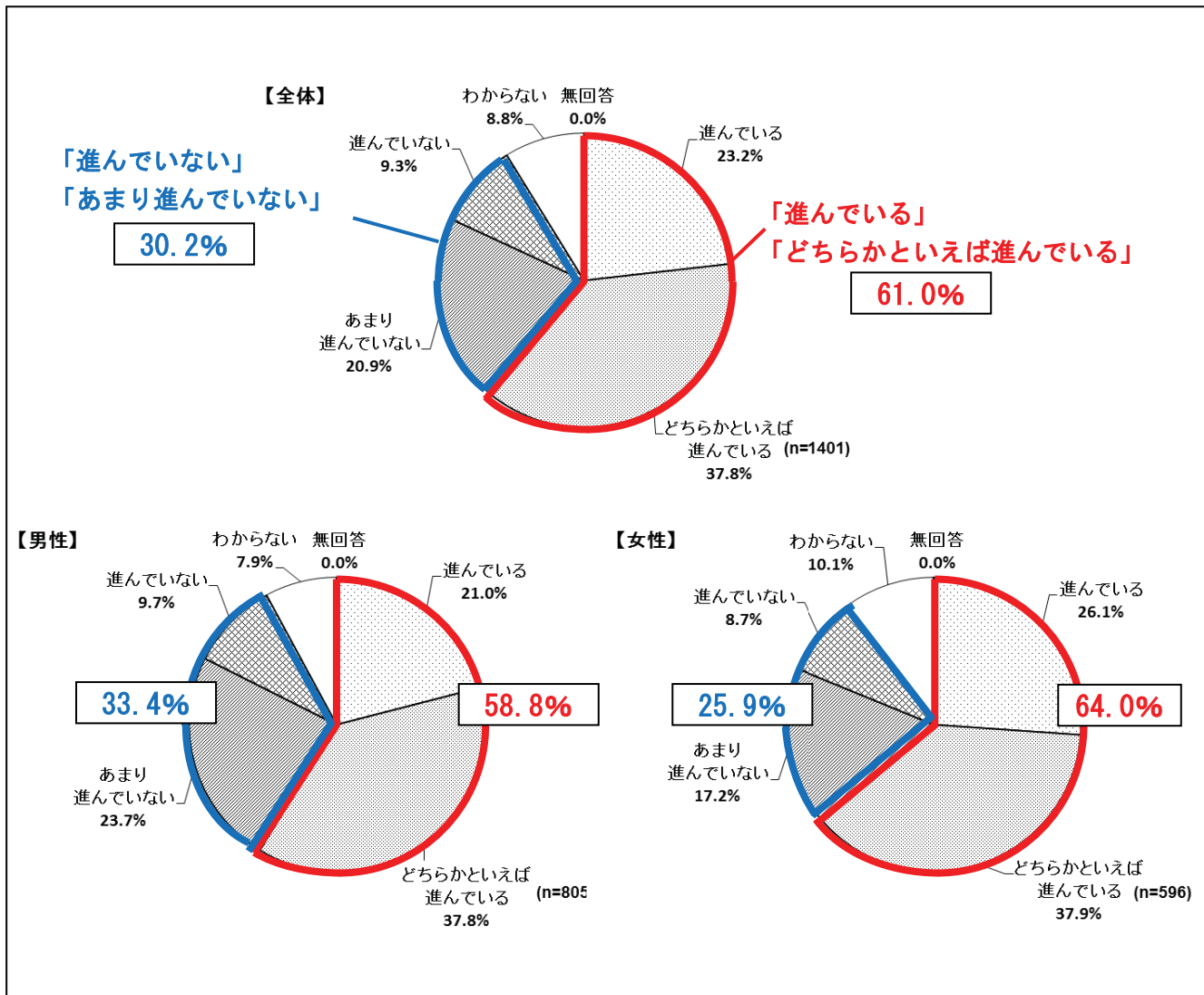
【参考】平成26年度調査

※「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」



●職場での女性活躍の取組について

2人以上が勤務する職場で働く方に、職場での女性活躍の取組についてたずねた。  
 全体では「進んでいる」「どちらかといえば進んでいる」の合計が61.0%、「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計が30.2%となっている。  
 性別でも、男性、女性ともに「進んでいる」「どちらかといえば進んでいる」の合計が「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計を上回っている。

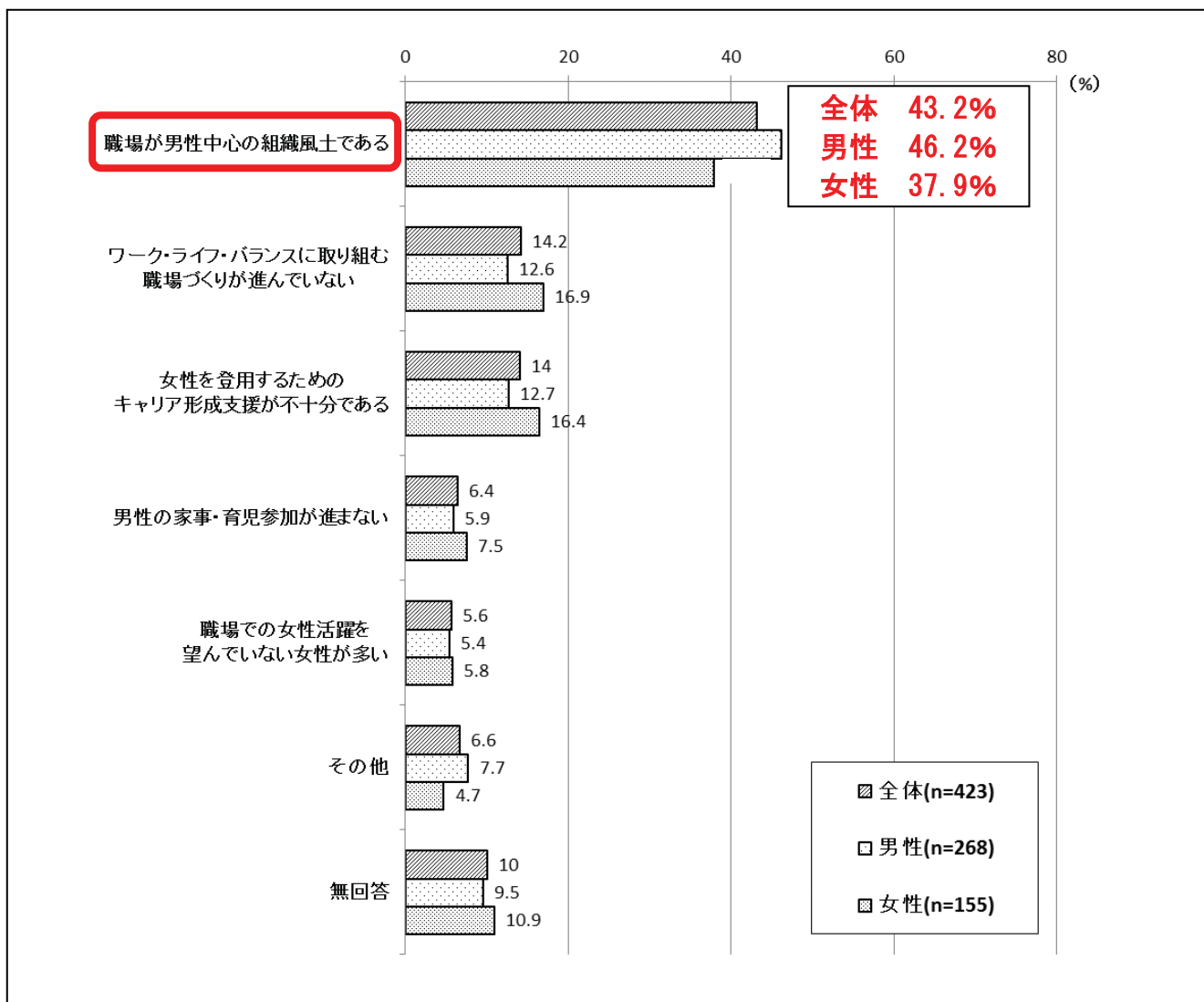


●職場で女性活躍の取組が進まない理由

職場での女性活躍の取組について「進んでいない」「あまり進んでいない」と回答した人（423人）に、その理由として最も大きいと思うことをたずねた。

全体、男性、女性いずれも、「職場が男性中心の組織風土である」の割合が圧倒的に高い。（全体43.2%、男性46.2%、女性37.9%）。

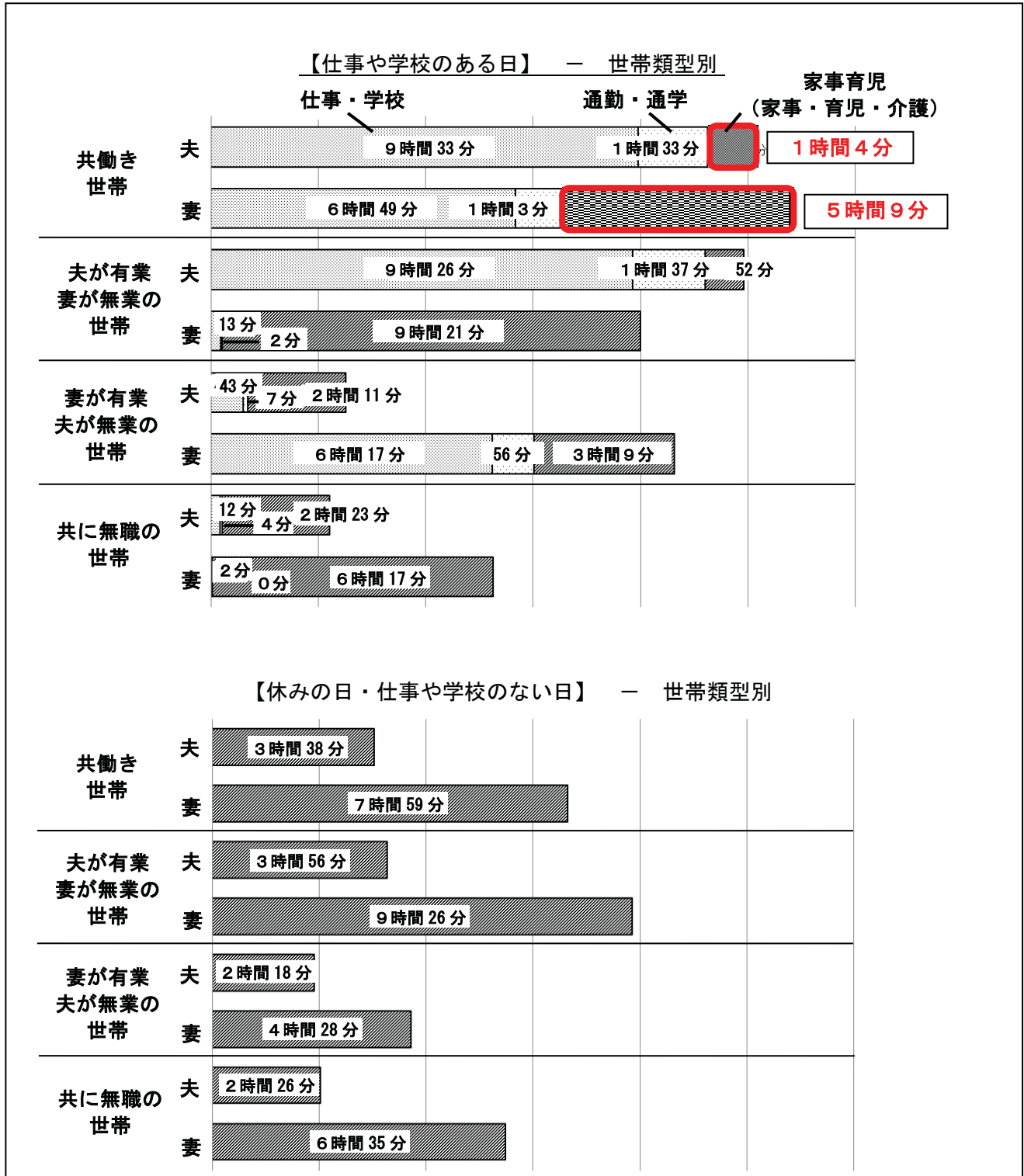
性別にみると、男性では「職場が男性中心の組織風土である」が女性より割合が高いが、それ以外の項目は女性の方が割合が高い。



●生活の中で各活動に費やしている時間 [世帯類型別]

働きの世帯と共働きではない世帯別に、各活動に費やしている時間についてたずねた。

仕事や学校のある日について、共働き世帯の「家事育児（家事・育児・介護）」に費やす時間をみると、男性（1時間4分）と女性（5時間9分）は約1対5となっており、女性に偏っていることがわかる。

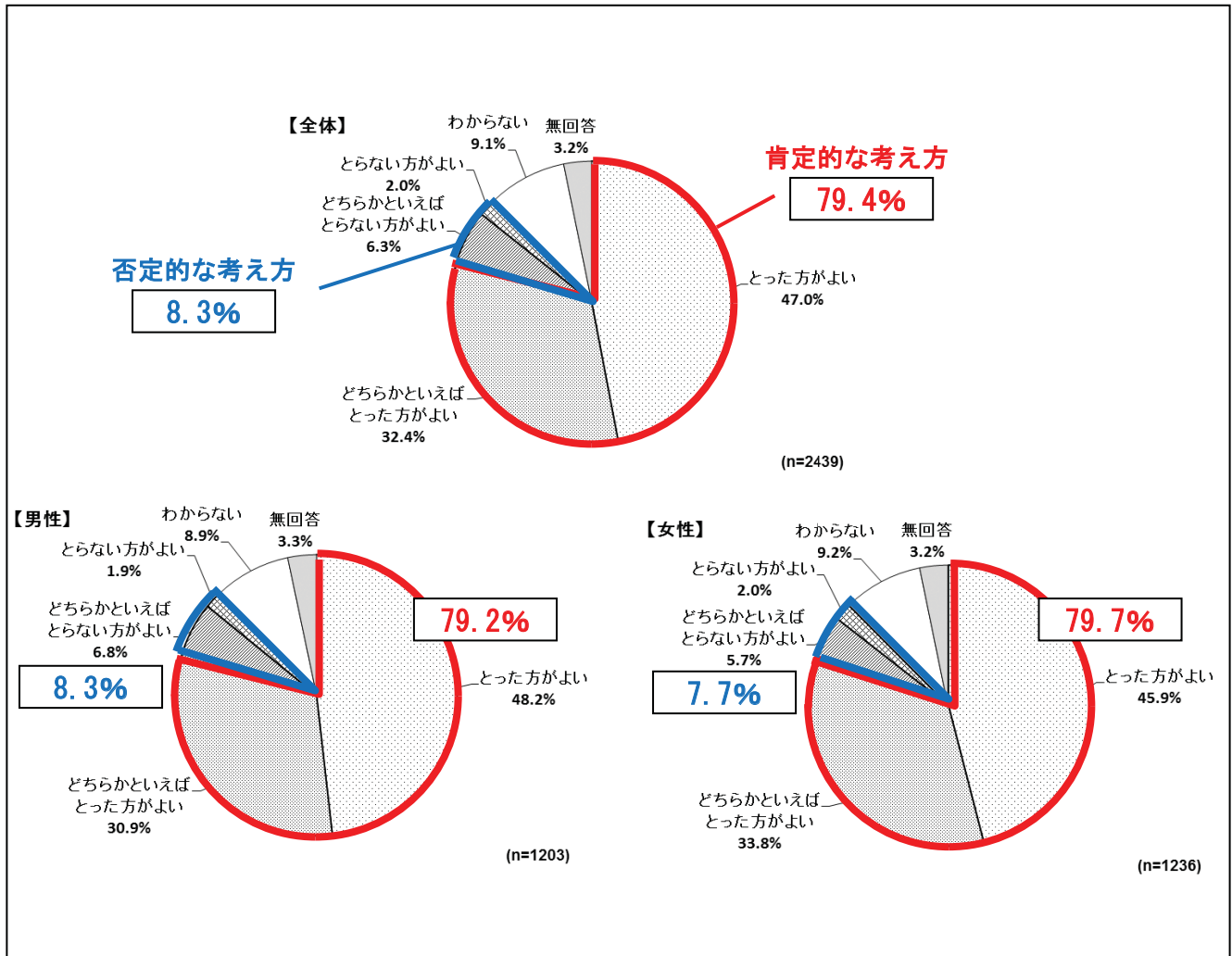


●男性が育児や介護のために休業や休暇を取得することに対する意識

男性が育児休業や介護休業・休暇を取得することについてどう思うかをたずねた。

全体、男性、女性いずれも、肯定的な考え方（「とった方がよい」と「どちらかといえばとった方がよい」の合計）が否定的な考え方（「とらない方がよい」と「どちらかといえばとらない方がよい」の合計）を大きく上回り、取得することに対する肯定的な意見が多い。

肯定的な考え方の割合は約8割となっている。



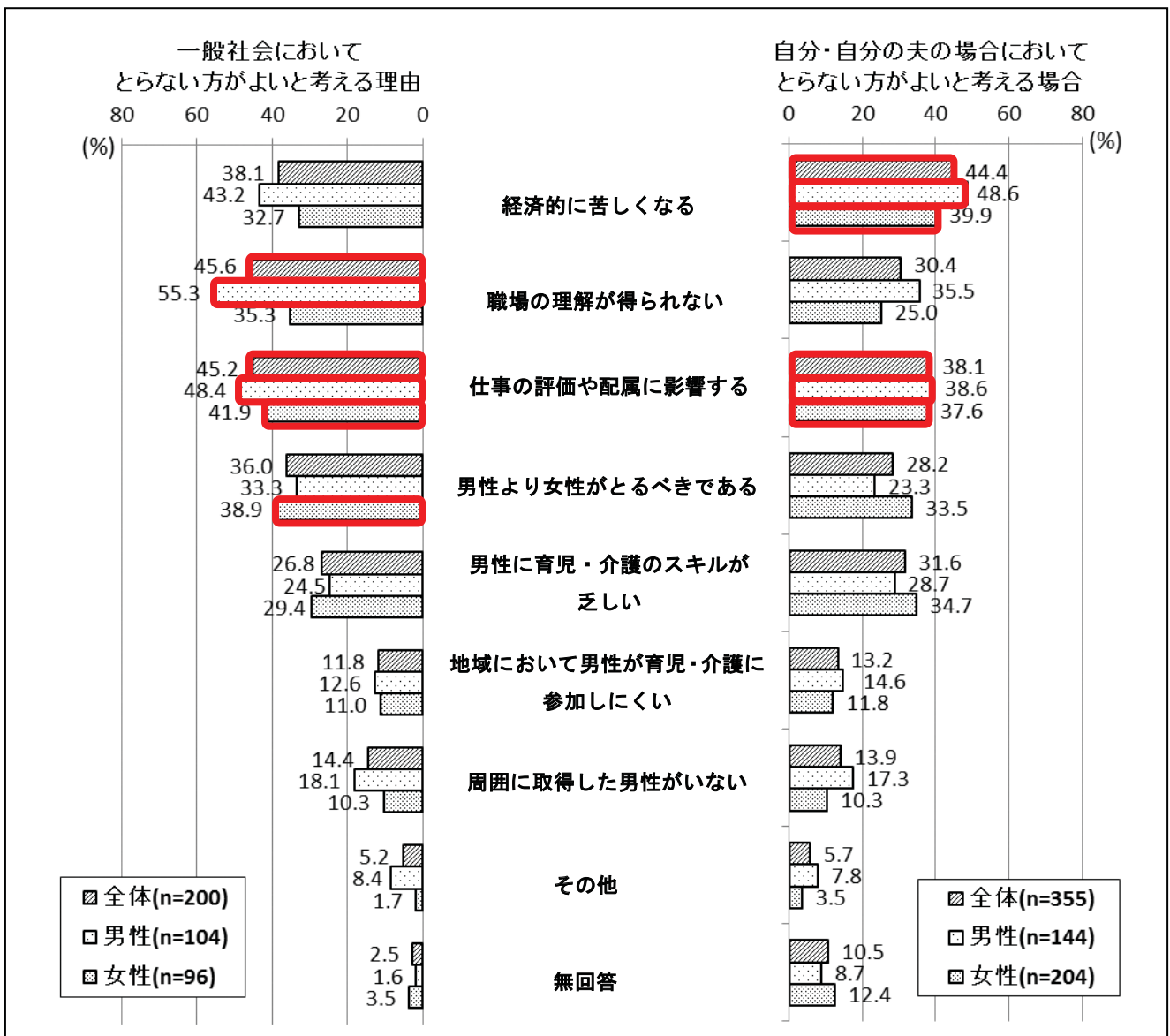


●男性は育児や介護のための休業や休暇を取得しない方がよいと考える理由

男性が育児や介護のための休業や休暇を取得することについて、「とらない方がよい」あるいは「どちらかといえばとらない方がよい」と回答した人（200人）に「一般社会における場合」と「自分・自分の夫の場合」について、そう考える理由をたずねた。

一般的社会における理由では、全体、男性ともに、「職場の理解が得られない」及び「仕事の評価や配属に影響する」といった仕事に関わるものが4割以上と多くなっている。女性では「仕事の評価や配属に影響する」と「男性より女性がとるべきである」が4割前後となっている。

自分・自分の夫の場合での理由は、全体、男性、女性ともに「経済的に苦しくなる」が最も多く、次いで「仕事の評価や配属に影響する」となっている。一般社会における場合と比較すると、「経済的に苦しくなる」「地域において男性が育児・介護に参加しにくい」「男性に育児・介護のスキルが乏しい」の項目で回答が上回っている。

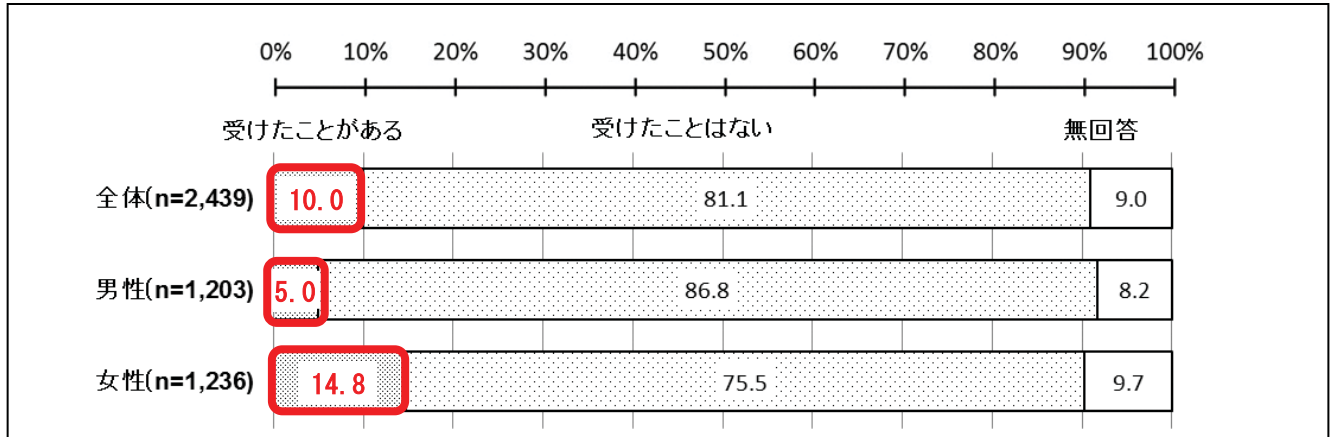




## ●セクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験

この3年間に、職場や学校、地域活動の場のいずれかの場所で、セクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験があるかをたずねた。

「受けたことがある」割合は、全体で10.0%、性別にみると、女性では14.8%で、男性（5.0%）も高くなっている。



## ●受けたことがあるセクシュアル・ハラスメントと思う行為 【職場】【学校】【地域活動の場】

この3年の間に、セクシュアル・ハラスメントと思う行為を「受けたことがある」と回答した人(243人)に、どのような行為を受けたのかをたずねた。

「職場」受けたことがあるセクシュアル・ハラスメントとしては、全体では「容姿や年齢について話題にされた」(42.3%)が最も多く、次いで「性的な話や冗談を聞かされた」(33.5%)、「結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた」(29.4%)と続く。

性別にみると、女性については、「容姿や年齢について話題にされた」(45.0%)が最も高く、男性では「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言われた」(41.9%)、最も高い。

